

interview
移住者の声

移住前にお試しハウスの利用を経てリモートワーク移住した松永さん、地域おこし協力隊としての活動をきっかけに弘前市へ移住した石戸谷さんのお二人にお話を聞きました。

私は神奈川県横浜市出身で、弘前市出身の妻と出会ったことで弘前市に興味を待ちました。東京で働いていた2020年に緊急事態宣言が出て、すぐにリモートワークに切り替え。一度も出社しないまま1年が過ぎた頃、「家にいながら仕事ができるのに、あえて東京にいる意味とは何だろう」と考えるようになりました。もともと、いつかは首都圏を出て生活をしたいという夢があったので、夫婦で弘前市へ移住しました。

移住お試しハウスで生活を体験

昨年4月に2週間、市の移住お試しハウスを利用しました。お試しハウスには家具家電や食器、日用品など、すぐに生活できる環境が整っています。日中は仕事をして、夜は地元の人が利用する百貨店などを巡りました。また、外食はなるべく控え、スーパーで地元の食材を買って自炊をしました。旅行で訪れるのと実際の生活は違うので、移住後のリアルな生活を体験できてとても良かったです。

心にゆとりと豊かさが

現在は移住前と同じ会社に所属し、リモートワークをしています。東京では1LDKの片隅で仕事をしていましたが、弘前では東京と同じ家賃で3倍の広さの家に住めるので、仕事部屋を作ることができました。気持ちにゆと



妻のふるさとから自分の「第二のふるさと」へ

まつなが りょうへい
首都圏の会社に所属しながら弘前に移住 松永 諒平さん

りが生まれ、仕事の効率が上がったと感じます。

移住して感じることは、人の温かさ。移住して初めての冬、車のタイヤが雪にはまり立ち往生したことがありました。



▲自宅リモートワークすると近くにいた人が3~4人集まってきて、助けてくれました。外は寒いけど人は温かい、移住の選択は正しかったと確信しました。

また、弘前に来て、四季を丁寧に楽しむ素晴らしさを知りました。街も山も白く染めてしまう雪が解けると、だんだんと緑が見えてきて春の訪れを感じます。窓を開けるとねぶたの囃子（はやし）や津軽三味線の音が聞こえるのも風流だなと思いました。

弘前の魅力を発信する一翼になりたい

私は現在、洋菓子のインターネット販売に関する仕事をしています。今後は、培ってきたマーケティングの経験を生かして弘前の企業や人をお手伝いしたいです。農産物や伝統工芸品、地元で愛される銘菓のほか、まだ知らない弘前の魅力を発見し全国に広めることが夢です。

家で仕事をしているとなかなか人と出会うことがないので、これからは移住者や地元の人と関わるイベントに積極的に参加したいです。街で見かけたら声をかけてくださいね。友達、募集中です。

「地域密着型神主」を目指して

いしとや ひろこ
地域おこし協力隊から神職へ 石戸谷 寛子さん



移住前は、出身地である埼玉県で行政書士として働いていました。新婚旅行で訪れた岩木山神社で不思議な体験をしたことで、人と神をつなぐ神職の仕事に興味を持ちました。2020年の初夢で「修行先が決まったから行きなさい」という声を聞いたことや、新型コロナウイルス感染症の流行で「悔いのない人生を送りたい」と強く感じたことが後押しとなり、移住先を探すこととなりました。

「たまたま」弘前市へ

始めは埼玉県に本拠地を置きつつ、新幹線で行き来できる近場で神主になりたいと思っていましたが、神社の生まれではない私の道は厳しく…。関東圏から東北へと範囲を広げて調べるうちに青森県の移住オンラインイベントがあることがわかり、さっそく参加。そこでブース出展していた市の担当者に勧められたのが東目屋地区の地域おこし協力隊でした。協力隊のミッションの一つに「地元の神社を盛り上げる」というのがあり、しかも東目屋はあの不思議体験をした岩木山神社から車で5分！この機会を逃したら後悔すると思い、さっそく翌日に高速バスで弘前へ。実際に東目屋地区を見学し、ここだと確信して、協力隊の願書を提出しました。

地域おこし協力隊としての1年7カ月

地域に早く溶け込みたいと、町会活動やPTA活動に積極的に参加しました。おかげで津軽弁も3カ月で聞き取れるようになりました（笑）。語学は慣れ、ですね。東目屋は仲間を大切にすあたたかい地域です。始めは「よそのもの」だと思われていると感じましたが、地域の催し

に参加し一緒に課題に取り組む中で、徐々に仲間として認められたと感じます。冬は雪に埋まった我が家を、近所の人に除雪機で救助していただきました。神職に就けたのも地域の皆さんとの出会いがきっかけなんです。人とのお会いがいつか今私があります。



▲りんごをリモート販売 私と一緒に移り住んだ娘（当時高校3年生）と息子（当時小学校4年生）は、温泉やりんご畑の風景に魅了され、すっかり弘前のとりこです。なんと娘は今年の4月に畑を購入し就農！いつか東目屋地域のりんご産を支える存在になってほしいと思います。

地域の拠点を作りたい

地域おこし協力隊と神職は全く関係ないように見えますが、地域で大切にしてきた伝統や文化を守り、次の世代へ引き継ぐという点では似ています。今後の地域との関わりの一つとして、自宅の一部を改装してカフェを作りたいです。地域の人はもちろん、外から来た人も気軽に入れるような空間にして東目屋のPRもできたらいいですね。「ちょっと神主さんのところにお茶しに行くよ」とみんなが集まれるような場所を作ることが私の夢です。

check!

移住お試しハウス

弘前圏域への移住や二地域居住を検討している人などを対象に、弘前での生活体験ができる場を提供しています。

- ▼利用可能期間 1週間単位（最長2週間）
- ▼所在地 土手町
- ▼使用料（週） 5月～10月＝1万8,000円 / 11月～4月＝2万円
- ▼申し込み方法 弘前ぐらしホームページ内のカレンダーや電話で予約状況を確認の上、電話で事前に申し込みを。事前申込後、使用開始日の1カ月前までに使用申請書に身分証明書の写しを添えて提出してください。



JR弘前駅から徒歩10分！

リモートワーカーにおすすめ！
リモートワーク
移住体験モニター
市内のコワーキングスペースを利用しながら、弘前での生活を体験できます。



詳細はこちら

check!

地域おこし協力隊を募集中！

現在、相馬地区で2人の隊員を募集しています。詳細は市ホームページ（QRコード）へ。



check!

新規就農者を歓迎しています！

新規就農の相談は農政課（☎40-0767）へ！農業技術の習得に必要な研修や、就職先となる農業法人の情報などを提供しています。また、農業の研修を受講するために移住し、賃貸住宅に居住する人には家賃支援も行っていきます。詳細は弘前ぐらしホームページ（QRコード）へ。



おわりに

帰りたい人がふるさとに帰れるように、弘前が誰かの「第二のふるさと」になれるように、市ではこれからも移住施策に取り組んでいきます。そのためには市民の皆さんの移住への理解や新しく住み始めた人へのあたたかい声かけなどの協力が不可欠です。ずっと弘前に住んでいた人も、最近住み始めた人も、みんなが暮らしやすいまちになるよう、これからの弘前市と一緒に作り上げていきましょう。